届け 世界の果てまでも

令和４年６月７日　Ｎｏ．１６　文責　校長　飯久保一男

謙虚な表現と責任を曖昧にする表現

日本語の動詞には「自動詞」と「他動詞」があります。国語で文法の学習をするときに，それらの違いを考えたり見分けたりすることは，難しい学習の一つです。でも，私たちは，会話の中で無意識に使い分けているのです。　教員の悪い癖です。すぐ理屈をこねて難しい文章にしてしまいます。すみません…。

□ 自動詞	□ 他動詞
・ドアが開く	・ドアを開ける
・火が消える	・火を消す
・ガラスが割れる	・ガラスを割る
・カギが壊れる	・カギを壊す　　など

お客さんにお茶をふるまうときに，次の２つの言い回しがあります。

□ 自動詞「お茶が入りました」　□ 他動詞「お茶を入れました」

居間でお客さんが数人，それぞれにくつろいでいるところへ，お茶を持っていくときに言葉をかけるとしたらどちらを使うでしょう。「お茶が入りました。みなさんどうぞ。」と言うほうが多いかもしれません。しかしよく考えると不思議な言葉なのです。お茶が自分で勝手に茶碗の中に入ることはありませんが，「お茶が入りました」と言われても違和感はありません。だだし，今からお茶の用意をするというときには，他動詞を使い，「お茶を入れますので，しばらくお待ちください」という言い方をしないとちょっとおかしな表現になると思います。

「お茶を入れました」という他動詞の主語は，「私が」などになり，自分がその行為をしたことを表します。「お茶が入りました」という自動詞の主語は「お茶が」です。では，なぜ「お茶が入りました」という表現に違和感がないのでしょう。これには日本人がもつ，古来よりの「自分を主張しないことを美徳とする」という価値観が関わっています。この価値観が言葉として表れているのです。

「結婚することになりました」というあいさつ状をもらうことがあります。結婚すると決めたのは自分たちなので，「結婚します」という表現で構わないのですが，「結婚することになりました」という自動詞を使って表現をすることで，控えめな言い方になるのです。

「お茶が入りました」という言い回しも，自動詞を使うことで，「お茶を入れたのは自分だ」と主張しない謙虚な言い回しになるのです。あえて自分を主張しない，日本人の控えめで，謙虚な価値観が表れた言い回しなのです。

こう書いてきますと，自動詞で表現することは，謙虚さが表れるいい表現のように感じるかもしれません。しかし，この自動詞での表現は，使う状況によっては，**「責任を曖昧にする」表現になってしまう場合があるのです**。校長室にはときどき，学校のものを壊してしまい，担任に伴われて，謝りにやってくる子がいます。学校のものを壊したのだから校長に謝らせて，反省させようという担任の手法の一つです。

そのときの子どもの言葉です。

「校長先生，〇〇が壊れてしまいました…。」と，割と自動詞を使って言ってきます。こういうとき私は，

「壊したのは誰ですか？」と聞き返します。

「ぼく（私）です。」との返事を待って

「じゃぁ『壊れた』じゃなくて，『壊した』だよね。」と他動詞を使うべきであることを伝えます。すると，

「〇〇を壊してしまいました。」と言い直します。

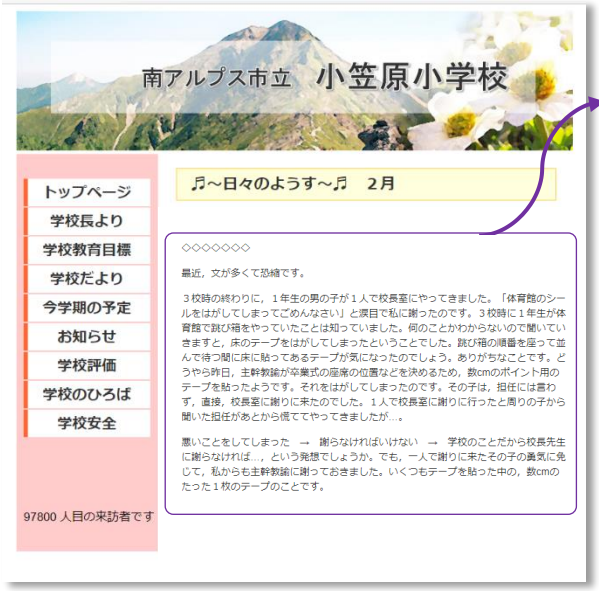
こういう場合には，自分がしてしまったと，責任をとる言い方を考えてほしいと思っています。

まぁ，その前に担任に叱られています。そして，反省している態度で私のところに連れてこられていますのですから，私が重ねて叱る必要はないと思っています。反省しているのであればそれでいいと思いますので，**「学校のものや人のものは，自分のもの以上に大切にしよう。」**と付け加えるくらいにしておきます。

大人になれば，「壊れた」という自動詞を使うと，「壊した」自分を隠すという自動詞のもう一つの特徴でもある，責任を曖昧にする・責任から逃れている言い方だと受け取られる可能性があります。もちろん，子どもたちは「壊れた」と「壊した」の違いを知っていて，使い分けているのではないと思います。しかし，心のどこかには，「校長室に謝りに行くことになってしまった」→「やばい，どうしよう」→「できれば怒られない言い方をしよう」などという心理が働いているのかもしれません。

どうやら日本人は，心の奥底では，自動詞を使って，「謙虚・控えめ」のニュアンスを添えるか，「責任を曖昧にする」表現をするか，そのときの自分の心情で無意識に使い分けてしまうようです。

と，ここまで書いたところ，昨年度，本校のホームページ【学校のひろば】の ♫～日々のようす～♫ に，校長室に１人で謝りに来た１年生（現２年生）のことを書いたことを思い出しました。見返してみましたら，２月１７日（木）にそのことを書いていました。この子は，ちゃんと他動詞を使って，責任をとる謝り方をしていました。



３校時の終わりに，１年生の男の子が１人で校長室にやってきました。「体育館のシールをはがしてしまってごめんなさい」と涙目で私に謝ったのです。３校時に１年生が体育館で跳び箱をやっていたことは知っていました。何のことかわからないので聞いていきますと，床のテープをはがしてしまったということでした。跳び箱の順番を座って並んで待つ間に床に貼ってあるテープが気になったのでしょう。ありがちなことです。どうやら昨日，主幹教諭が卒業式の座席の位置などを決めるため，数 cm のポイント用のテープを貼ったようです。それをはがしてしまったのです。その子は，担任には言わず，直接，校長室に謝りに来たのでした。１人で校長室に謝りに行ったと周りの子から聞いた担任があとから慌ててやってきましたが…。

悪いことをしてしまった　→　謝らなければいけない　→　学校のことだから校長先生に謝らなければ…，という発想でしょうか。でも，１人で謝りに来たその子の勇気に免じて，私からも主幹教諭に謝っておきました。いくつもテープを貼った中の，数 cm のたった１枚のテープのことです。

今年度は左を使っていますが，右画像は昨年度の校長通信で，私のコメントをなど書くとき，よく登場させていた画像です。恐る恐る手を挙げている姿と，困り顔が特にお気に入りです。